

第4回 みえ森林教育シンポジウム

<メインテーマ>

未来の森林と暮らしのために、私たちが今できること
～ 知ってほしい 森のこと 木のことを～

日時：2026年1月31日(土) 9:30～16:30

場所：スズカト（三重県立鈴鹿青少年センター）

主催：三重県



第1部ワークショップ（幼児教育・保育セッション）



第1部ワークショップ（学校教育セッション）



第2部ステージイベント（トークセッション）



参加者交流会

三重県では、令和2年に策定した「みえ森林教育ビジョン」に基づき、森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会をつくるために、誰もが森林や木に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す「みえ森林教育」の取組を進めています。

こうした中、子どもたちが森や木に触れる機会を数多く提供するとともに、森のこと、木のことについて、より深い学びを得るために私たちができることを考えることを目的として、第4回みえ森林教育シンポジウムを開催しました。

プログラム概要

<第1部 ワークショップ> [3F 大研修室、中研修室]

幼児教育・保育セッション 定員：50名

時間：9:30～12:00

会場：3F 大研修室

テーマ：森とつながる原体験

<モデレーター>

宮里 暁美 氏 (お茶の水女子大学 特任教授)



文京区立お茶の水女子大学こども園園長等を経て、2021年4月よりお茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授。子どもたちのごくそばで過ごしなが、子どもたちの小さな動きに目をとめ、保育について思いをめぐらしている。

<アドバイザー>

嘉成 永慈 氏 (森の風こども園 副園長、森の風しぜん学校 代表)

学校教育セッション 定員：50名

時間：9:30～12:00

会場：3F 中研修室

テーマ：森や木に関わる機会づくり

<モデレーター>

佐藤 洋 氏 (山梨県都留市ネイチャーセンター博物館 学芸員)



県内外の幼児期や青年期の子どもたちを森に招き入れ、年齢や課題にあわせた「生きる力」を育むプログラムを展開。森や木々の見立てから伐採、搬出、製材など、プロセス重視の活動を得意とする。教職員など大人向けの研修も幅広く企画・実践している。

<アドバイザー>

高田 研 氏 (一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長)

<第2部 ステージイベント> [1F 総合研修館]

第12回みえの森フォトコンテスト表彰式、トークセッション 定員：300名

13:00～ 開会

13:05～ 第12回みえの森フォトコンテスト表彰式

13:25～ トークセッション

『持続可能な社会の実現と森林 ～知ってほしい 森のこと 木のことを～』

13:25～14:35 プレトーク (パネリストによるプレゼンテーション)

14:50～16:20 トークセッション (パネリストによるトーク、会場との意見交換)

<コーディネーター> 長野 麻子 氏 (株式会社モリアゲ 代表)



東京大学文学部フランス文学科卒、1994年に農林水産省に入省。2018年から3年間、林野庁木材利用課長として「ウッド・チェンジ」を各地で呼び続ける。豊かな森を次代につなぐことを勝手に天命と感じ、2022年6月に早期退職。同年8月に日本の森を盛り上げる株式会社モリアゲを設立し、森林業コンサルタントとして全国の森をモリアゲ中。



<パネリスト>

小林 謙一 氏 (岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 森林環境教育専攻)



約20年間、東京で映像制作(CG)にプロデューサー、ディレクターとして携わる。40歳で岐阜県立森林文化アカデミーに入学。在学中に、岐阜県郡上市の移住促進業務に従事。都市部から地方に人を呼び込むプログラムを市と連携して企画・実施。2022年4月から現職。

堀内 楓子 氏 (叶林業合名会社、LEAFローカルインストラクター)



2012年に家業である叶林業合名会社 (松阪市飯高町) に就業。2016年より松阪市内の小学校を中心に森林散策、出前授業、クラフト等、幅広く森林教育に取り組む。五感を使って体験することを大切に、森林や木に親しみを感じてもらえるよう内容を工夫している。

百瀬 則子 氏 (一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表理事)



2001年よりユニー(株)の環境・社会貢献担当を務め、食品リサイクル等に取り組む。2019年に(一社)中部SDGs推進センターを立ち上げ、SDGsに関する啓発活動を実施。同時にワタミ(株)のSDGs推進本部長として持続可能な社会の構築をめざし、森林保全活動等に取り組んでいる。

16:30 閉会

16:50～18:00 参加者交流会



幼児教育・保育セクション

～当日のプログラム～

- 9:30～ 概要説明
- 9:40～ 事例発表①
〔たいりん保育園 園長 高木美紀子氏〕
- 10:00～ 事例発表②
〔やしおぼーず 代表 宮里耕太氏〕
- 10:30～ 個人ワークとグループワーク
- 11:10～ グループ発表
- 11:40～ 講師からのコメントと意見交換
- 11:50～ まとめ

テーマ：森とつながる原体験

当日は、保育園やこども園等の先生をはじめ、森林教育指導者や保護者の方など、46名にご参加いただきました。

最初に、モデレーターの宮里暁美氏から、本日のテーマや進め方について説明があり、続く事例発表では、「自然豊かな園」と「都会のど真ん中の園」での事例を発表していただきました。

ワークショップでは、個人ワークでまとめた自分の原体験や原風景について、グループで紹介しながら話し合い、森とのつながりや原体験の持つ意味について、活発な意見交換を行いました。

事例発表の概要

- ① たいりん保育園園長の高木美紀子氏からは、トトロの森から始まった「森が育てた子どもの探求心と保育者のまなざし」について発表していただきました。子どもたちの育ちなどについて、みえ森林教育アドバイザー派遣がきっかけの一つになったことや、地域や企業との関わり等について、紹介していただきました。
- ② やしおぼーず代表の宮里耕太氏からは、東京都心の品川区八潮地区で行っている「やしお森っこ」や「やしおプレイパーク」での、子どもたちの「やってみたい」を見守り・支援する活動、前職の保育士時代に川崎市の都会のど真ん中にある保育園で実施した園庭の外から自然を持ち込み、子どもたちとともに楽しむ活動を紹介していただきました。

グループワークの内容

- ① 最初に個人ワークとして「私の原体験、原風景」について絵や文字にしてカードに書いてみました。
- ② 次に、アドバイザーの嘉成永慈氏から「個人のカードをグループで共有してから原体験の背景を模造紙に描いてください。」という難題が出され、各グループで活発な意見交換が行われました。
- ③ できあがった素敵な成果物をグループごとに発表していただきました。

得られた成果

事例発表では、県内の自然豊かな田園地域の保育園と東京都品川区という大都会の中での実践事例を紹介していただき、まったく異なる環境での事例を知ることができました。

グループワークでは、うまく言葉にできないことも絵にすると伝わるということを感じました。初めて出会った人たちとの意見交換や共同作業を通じて、グループワークならではのユニークで楽しい成果物がたくさんできあがりました。



「原体験」というキーワードを軸に、人と自然との繋がりなど、各グループで活発な意見交換が行われました。



グループワークの成果を発表。参加者の皆さんの、多種多様な原体験が重なり合う貴重な機会となりました。



事例発表を行う高木美紀子氏。森とつながることで育まれた子どもの探求心についてお話をいただきました。



事例発表を行う宮里耕太氏。都会のど真ん中にある園でも、遊び心といたずら心があれば、できることはたくさんあることをお話いただきました。

参加者の声

様々な環境でできる自然との関わり、保育者や子どもたちの変化などを聞くことで、新たな気づきやヒントを得ました。グループ討議もいろいろな人と自然について語ることができて楽しかったです。

【保育者、幼稚園の先生等】

保育環境が整っていないなくても、持ち込めばいいという発想が面白いと感じました。どんどん窮屈になっていく環境でも色々とアイデアと工夫をすることで乗り越えられると感じワクワクします。

【保育者、幼稚園の先生等】

モデレーターから一言

宮里 暁美 氏 (お茶の水女子大学 特任教授)



参加者の皆さんの意識がとても高く、豊かな学び合いができたように思います。自分の原体験や原風景を描くという課題は難しいかとも思いましたが、皆様のご協力のもと、豊かな学びにつながりました。あらためて、このシンポジウムの意義を確認した思いがしました。

アドバイザーから一言

嘉成 永慈 氏 (森の風こども園 副園長、森の風しぜん学校 代表)



今回も沢山の方々と共に学びの場を創れたことに感謝です。シンポジウムの熱量を改めて感じさせていただきました。今回は、保育を絵で表現するというワークショップを行いました。それぞれのグループの表現するものの違いや一致がまた素敵で、皆さんの感性の豊かさに驚かされました。

学校教育セクション

～当日のプログラム～

- 9:30～ 概要説明
- 9:50～ グループで自己紹介
- 10:10～ 事例発表①
〔いなべ市集落支援員 田端昇氏〕
- 10:25～ 事例発表②
〔いなべ市立藤原小学校 校長 島田美樹氏〕
- 10:50～ グループワーク①
- 11:15～ グループワーク②
- 11:50～ 発表、まとめ

テーマ：森や木に関わる機会づくり

当日は、森林教育の指導者や学校の先生をはじめ、行政職員や企業の方など、37名にご参加いただきました。

最初にモデレーターの佐藤洋氏から本日のテーマや進め方について説明があり、続く事例発表では、学校と地域で森や木に関わる機会づくりに取り組んでいる事例を発表していただきました。

ワークショップでは、事例発表の内容をベースに、「自分なら何ができるか」等について話し合うグループワークを行いました。

事例発表の概要

- ① こども園などの保育の現場で自然体験活動を実施するいなべ市集落支援員の田端昇氏からは、活動の中で地域の森や田んぼに関わる人とつながりができたこと、小学校で実施されている「田植え」にこども園の子たちも一緒に参加し、学校とのつながりが生まれたこと等をお話いただきました。
- ② 藤原小学校校長の島田美樹氏からは、藤原小学校の環境教育に対する姿勢とこれまでの取組、子どもと保護者と地域がつながり、共に活動することの必要性和すばらしさについてお話いただきました。

グループワークの内容

- ① まず、事例発表について聞きたいこと、深めたいことをグループの中で話し合い、一言でA5の紙に書き出しました。次に、書き出した紙を全体で集めて、似たワードごとにカテゴリライズし、書き出したワードの説明や補足を参加者と事例発表者がそれぞれ行い、意見を交わしました。
- ② ①でカテゴリライズした内容ごとにテーマを設定し、あらためてグループ分けを行い、参加者は興味のあるテーマに対して「自分なら何ができるか」ということで話し合いを行いました。
- ③ 最後に、各グループでの話し合いの内容を発表していただきました。

得られた成果

森や木に関わる機会を子ども達につくりたいと考える人が集まり、テーマをもとにそれぞれの立場で語り合うことによって、「なんかいい!」という感覚の共有やモチベーションの向上、新たな関係性を作る機会となりました。自分自身が楽しみながら活動をすることの重要性を強く感じる機会となりました。



事例発表を行う田端昇氏。森や木に関わる経緯や活動における子どもとの関りについてお話いただきました。



事例発表を行う島田美樹氏。いなべ市における教育の考え方や学校と地域との関りについてお話いただきました。

参加者の声

考えるヒントをたくさんもらえました。講師だけでなく参加者の皆さんからも大きなパワーをいただきました。職場に戻って少しずつ行動が変わってきたように思います。

【小中学校、高校等の先生】

講師の方が言っていた「なんかいい!」がありました。グループワークで皆さんの森林に対する想いが聞けて良かったです。時間が足りない位の内容でした。

【林業・木材産業関係者】



事例発表で感じたこと、自分達の立場や考え方などから、聞きたいことを決め、書き出し、意見交換しました。



テーマを決め、さらなる深掘りのグループワーク、様々な立場の人の考えを共有し合う貴重な機会となりました。

モデレーターから一言

佐藤 洋氏 (山梨県都留市ネイチャーセンター博物館 学芸員)



三重県の皆さんの森林教育への熱意を一層強く感じることができた第4回シンポジウムでした。今後に向けて、室内での議論だけでなく、参加者の皆さんが、同じ空間で同じ体験を共有し、そこで感じた問題を提起し、語り合っていく、そんな場を作っていくことが必要と感じました。

アドバイザーから一言

高田 研氏 (一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長)



林業を生業とする人々とその文化が、子ども達の学びとつながり、そして憧れの対象となっていく、そんな森林教育であって欲しいと願っています。また、このシンポジウムを継続・発展させることは、三重県だけでなく、全国的にも重要な意味を持っていると感じています。そのことが実感できるシンポジウムでした。

第12回みえの森フォトコンテスト表彰式

みえの森フォトコンテストは、「三重の森林」をテーマとして、「森林や木」「森林や木と人のふれあい」などについて表現した作品を募集するフォトコンテストで、令和7年6月20日から10月31日の期間、作品を募集しました。

第12回の応募作品数は、中学生以上の部で270作品、小学生以下の部で100作品ということで、計370作品もの応募があり、令和7年12月9日に開催された審査会で、入賞作品が選ばれ、今回、部門ごとの最優秀賞、優秀賞を受賞した8名が表彰されました。

また、第2部ステージイベントの会場である総合研修館にて、入賞作品の展示を行い、シンポジウムの参加者、入賞者とそのご家族など、多くの方に作品をご覧いただきました。



表彰者の皆さま

【小学生以下の部】

最優秀賞：川瀬 諒さん（いなべ市立阿下喜小学校 3年）

優秀賞：久保 可宇栄さん（四日市市立桜小学校 4年）

岡田 康生さん（桑名市立多度東小学校 1年）

平田 りあさん（松阪市立花岡幼稚園 5歳）

【中学生以上の部】

最優秀賞：辻 太耀さん（エスコラピオス学園 海星高等学校 1年）

優秀賞：宜保 ナオミさん（三重県立伊賀白鳳高等学校 1年）小倉 虎大さん（三重県立久居農林高等学校 3年）

城 あかりさん（皇学館高等学校 3年）



中学生以上の部 最優秀賞 辻 太耀さん



小学生以下の部 最優秀賞 川瀬 諒さん



津市在住の写真家 松原 豊 氏による講評



入賞作品の展示状況

トークセッション、参加者交流会

テーマ：持続可能な社会の実現と森林 ～知ってほしい森のこと 木のことを～

1階の総合研修館にて午後から開催したステージイベントには、関係者を含め174名という多くの方にご参加いただきました。トークセッションでは、コーディネーターとして株式会社モリアゲの長野麻子氏、パネリストとして岐阜県立森林文化アカデミーの小林謙一氏、叶林業合名会社の堀内楓子氏、一般社団法人中部SDGs推進センターの百瀬則子氏をお迎えし、より多くの人に、森のこと、木のことを知ってもらって、森を想う人を増やしていきたい、そのために何ができるのかを考えるという趣旨のもと、前半は、登壇者によるプレトークを、後半は、登壇者によるトークセッション、会場との意見交換を行いました。

【プレトーク】



長野 麻子 氏

プレトークの冒頭、参加者の皆さんへの話題提供として、株式会社モリアゲの長野麻子氏から、日本の森の可能性や山村の現状、豊かな森を次代につなげていくべき社会的背景等をお話いただきました。

東京23区において実施したアンケートでは、幼少期に自然に親しんでいた人ほど、森林を訪れる頻度が高かったことをご紹介いただき、森と人との関わり的重要性をあらためて感じました。

また、森のことを自分事化する一社一山の取組や人事院が実施する森林研修とその効果等についてもご紹介いただきました。

「森を想う人口7割へ」、「一人の100歩より100人の一歩」など、分かりやすく印象的な言葉で、参加者の皆さんのモチベーションを高めていただきました。



堀内 楓子 氏

叶林業合名会社の堀内楓子氏からは、「森からのおくりもの ～林業家としての役割～」と題して、自身の森林教育活動の原点や活動を続ける中で感じていること等をお話いただきました。

山に入り、先人の時間を感じ、地域の方と話をする中での気づきが、今の活動の原点になっているという堀内さん。木にはそれぞれに違う美しさや特徴があり、自分もまた山や自然の一部と感じる瞬間があること。今、ここにある森は長い年月と先人の積み重ねの上にあること。こうした感覚を、地域の子供たちをはじめ、多くの人と共有したい。冬イチゴの味を語り合える関係をつくりたい。人も自然の一部で、私たちは、地域や森からたくさんの「おくりもの」を受け取って生きている等、心に響く素敵なお話をいただきました。



百瀬 則子 氏

一般社団法人中部SDGs推進センターの百瀬則子氏からは、これまで民間企業において、SDGsの推進に取り組んできた立場から、企業が森林活動に取り組む理由やその効果、具体的な活動事例等をお話いただきました。

企業は事業活動を行うことで自然に迷惑をかけてしまっているという事実がある中、森を守る活動を通じて、自然への罪滅ぼし、恩返しをしようというのが、企業が森林活動に取り組む理由とのお話をいただきました。企業が実践する森林活動の例として、百瀬氏が所属するワタミ株式会社の小学生を対象とした森林教育活動等についてご紹介いただき、参加した子ども達が、自分たちで伐採したスギの円盤を家で見せるために持ち帰っていく（森を家に持って帰っていく）等、活動の生の姿をご紹介いただきました。



小林 謙一 氏

岐阜県立森林文化アカデミーの小林謙一氏からは、「森林から世界を動かすクリエイターを育てたい！」ということで、これからの森林教育に求められるものを考えるための話題提供をいただきました。

まず、森と人の分断が起きる中、双方のつなぎ直しをするためには、課題を自分ごととして考えること、教育から共育へ変化すること、暮らしの中に学びを取り入れること等が必要ではないかといったお話をいただきました。その後、森林から社会課題にアプローチするFbS(Forest-based Solution)人材を育てることの必要性をお話いただくとともに、経済合理性やコスト、タイパばかりにとらわれず、森の時間、森の意識で考えることを実践し、共に考え、共に学びあう森林共育に変化いく必要があるのではないかと貴重なご提案をいただきました。

トークセッション、参加者交流会

【トークセッション、会場との意見交換、参加者交流会】



登壇者によるトークセッション



会場との意見交換



参加者交流会

プレトーク後のトークセッションでは、長野氏によるコーディネートのもと、いかに「森を想う人」を増やしていくかについてお話いただきました。

パネリストの皆さんからは、自分自身が活動を心から楽しむことが大切、即時的な効果を求めない、森を知ることが共感につながり、行動につながっていく、AIが発達する中で、今後、言語化できない見えないものをつかむ力が大切になってくる、そういった力が人生の豊かさにつながっていくのではないかなどのお話をいただきました。

また、会場から、ぜひ森林教育に取り組んでいきたいが、子ども達にどうやって関心を持ってもらうか、きっかけをどう見つければ良いかといった質問があり、パネリストの皆さんからは、実は自分の生活と森が関わっていることに気づくこと、森を体験してみるなど大切ではといったお話がありました。

トークセッション後には、参加者交流会を開催し、第1部、第2部の講師を含め、約40名の方にご参加いただきました。交流会では、第1部ワークショップのモデレーターである宮里暁美氏、佐藤洋氏から各セッションの概要についてご紹介いただいた後、グループに分かれて、シンポジウムに対するそれぞれの感想を共有するなど、参加者同士でさまざまな話をさせていただきました。

参加者の声

皆さんの取組を知り、とてもポジティブな気持ちになることができました。まだまだ自分の中の方向性を模索していますが、皆さんのお話しを思い出し、ポジティブに積み重ねたいと思います。

【トークセッション参加者】

熱い想いがすごく伝わりました。自分の価値観にもすごく影響をもらえました。子どもの頃大好きだった自然を鮮明に思い出すことができました。

【トークセッション参加者】

堀内さんの言葉の数々が心に残りました。自然も地域、全部自分ごととして関わっている。自分のために楽しんでいることが、自分の喜びになり誰かの喜びになり、循環しているのが素敵だなと感じました。

【トークセッション参加者】

教員の方、行政の方、市民、観光事務所の方など、さまざまな分野の方と意見交換、交流ができ、とても充実した時間でした。ただ、話せる時間が短かったので、もう少し時間が欲しかったです。

【交流会参加者】

コーディネーターから一言

長野 麻子 氏 (株式会社モリアゲ 代表)



子どもだけでなく大人にも必要な森林教育、モリアゲていきましょう～

森のことは森で話そう。今後、森での開催を期待しています！

パネリストから一言

小林 謙一 氏 (岐阜県立森林文化アカデミー 准教授)



参加者、主催者のみなさんの熱心さがすごかったです。三重県の皆さんが、森林教育に真剣に取り組まれていることに感銘を受けました。午前のワークショップでは、都市部で森林教育の機会を作ることが難しいという声がありました。都市に住む人々の意識を森林につなげることは、これからますます大切になっていくと考えます。森林が生み出す空気と水は、地球上のすべての生き物とつながっています。森林教育に関わる私たち一人ひとりが「つなぐ人」になることが求められているとあらためて意識させられた一日でした。ありがとうございました。

パネリストから一言

堀内 楓子 氏 (叶林業合名会社、LEAFローカルインストラクター)



参加者の皆さん、講師の皆さん、それぞれがそれぞれのフィールドや思いを持って、活動されており、ここへきて、共通の時間・空間を過ごし、そこでそれぞれの感じたことを持ち帰っていく。そんな「場」があることにとっても意味を感じました。参加者の方々の交流や意見交換等があって成り立つ参加型のシンポジウムに、発表者、パネリストとしても存分に参加できたことを、とても嬉しく思います。

パネリストから一言

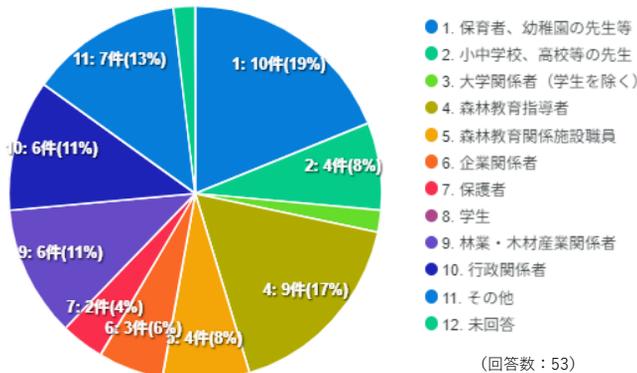
百瀬 則子 氏 (一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表理事)



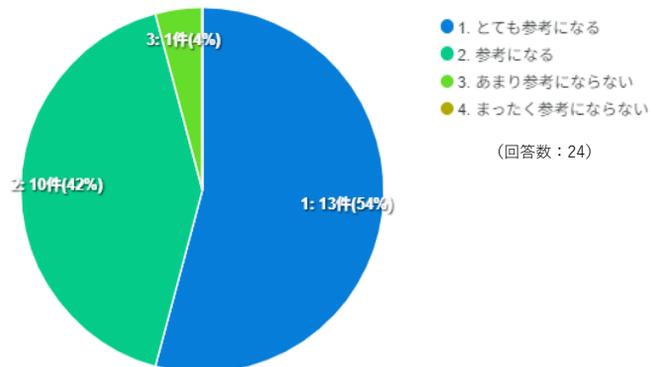
シンポジウムに参加してくださった、たくさんの森の活動に関係する人たちが、未来を生きる子ども達のために、森に行くことの楽しさや、森で見つける自然からの恵みを体験学習等で伝え、継続されることを期待しています。森で学んだ子ども達が、やがて自然を愛する大人になって、自然と共生する社会を構築してくれると思います。

アンケート結果

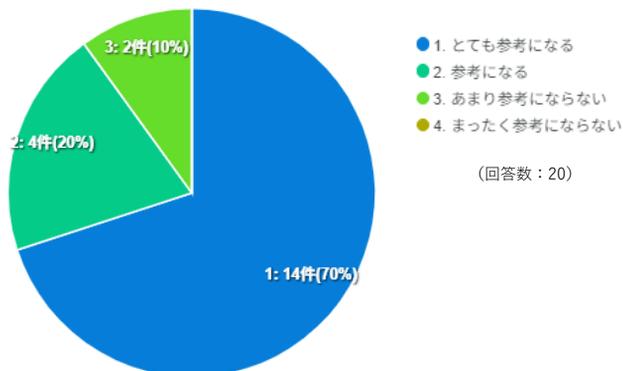
■参加者属性



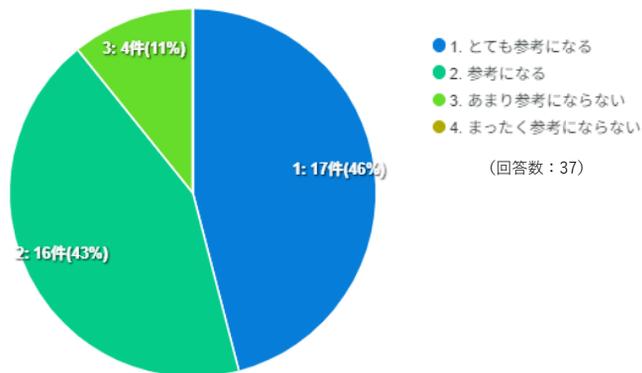
■幼児教育・保育セッションは、今後の取組の参考となりましたか。



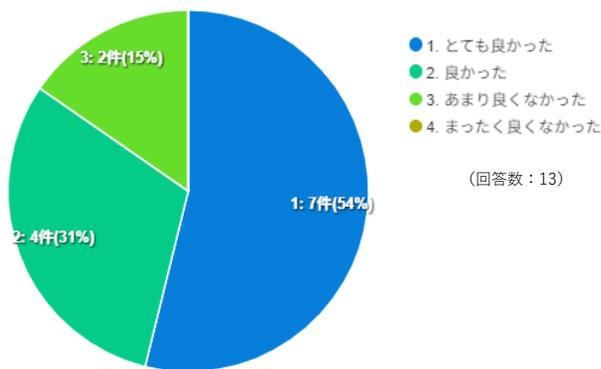
■学校教育セッションは、今後の取組の参考となりましたか。



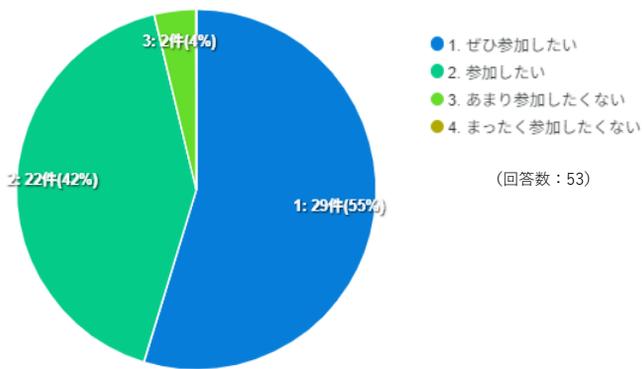
■ステージイベントにおけるトークセッションは、今後の取組の参考となりましたか。



■参加者交流会に対する感想をお聞かせください。



■次回もこのような機会があれば参加したいですか。



■自由記述（抜粋）

- ・一日中楽しく快適に和やかに勉強することができました。ありがとうございました。三重県の森林教育について、こんなにもたくさんの方が熱心に思いを馳せていることを知ることができて、嬉しく、参加できて良かったです。私も出来ることをしっかりしていきたいと思いました。「みえ森林共育」でこれからはどうでしょうか。次回のシンポジウムも楽しみにしています。
- ・森林教育に関わる多種多様な業界、組織でそれぞれの取組を進める皆さんが一堂に会する場を作ること、新たなイノベーションを起こせるつながりができると感じています。とても有意義な場でした。ありがとうございました。
- ・全国各地から参加者がいらっしゃってとても驚きました。こういう機会を求めている人が多いことを実感しました。是非また参加させていただきたいです。
- ・異業種で参加して、場違いかなと思っていましたが、普段関われない方々の活動や意見を知れてとても良い機会になりました。今後もっと門戸を開いて、専門分野から異業種、地域へと広げていただけたらと思います。自然は境界なくすぐそこにあって、誰もが関わっているものだと思うので繋がりがやすいと思います。

【お問い合わせ先】三重県林業研究所普及・森林教育課

電話 059-262-5352 FAX 059-262-0960

メール miefa2@pref.mie.lg.jp



みえ 森 と 緑 の 県 民 税

この取組には「みえ森と緑の県民税」が活用されています。